

## ●合併後における新発田市の誇れる財産の広報と伝承教育 について

### Q.

旧豊浦町及び旧紫雲寺町と合併し既に20年近く経っているが、その当該地区にある誇れる次の財産について多くの旧新発田市の住民は、その存在や歴史を知らないと判断している。

旧豊浦町にある市島邸と旧紫雲寺町にある紫雲寺潟干拓と竹前兄弟

1) 上記は堀部安兵衛、大倉喜八郎、そして今回の蔵春閣と並ぶ新発田市の財産と考えるが、新発田市の見解は？

2) 市島邸は新潟県内及び北陸屈指の豪農だったこと

3) 紫雲寺潟干拓に人生をかけた竹前兄弟は現在の長野県須坂市（旧米子村）出身であったにも関わらず、本干拓事業を途中兄弟をこの地で亡くしてもやりとおしたこと。

4) 上記堀部安兵衛及び大倉喜八郎は単に新発田藩の出身であることだけで、その功績は新発田市にもたらしているとは言えないと考えるが、新発田市の見解は？大倉は新発田にて紡績工場を設立し雇用を増やしたぐらいかと。

5) 本件は一般市民のみならず、特にこれからの新発田市を支える児童生徒への伝承教育の対象として、当該地区だけでなく広く取り扱われる必要があると考えるが、新発田市の見解は？

6) また、既存の新発田市独自の伝承教育が、一般市民への広報が実態として不十分と考えるが、新発田市の見解は？

7) このような伝承教育は、若者の郷土愛と誇れる我が郷土思いにもつながり、それが社会的な人口流出問題解決の一助になるとも考えるが、新発田市の見解は？

以上、新発田市の見解をお聞かせください。

(令和5年10月受付)

### A.

はじめに、市島邸と紫雲寺潟干拓、竹前兄弟については、ご意見のとおり、私も市の重要な財産であると考えております。市を代表する観光名所の一つである市島邸は、県の文化財にも指定されており、北越屈指の豪農の館として公開するとともに、市内外に紹介しております。紫雲寺潟とその干拓に貢献した竹前兄弟については、市ホームページの歴史図書館ガイダンス映像「蒲原平野の開拓」や公民館事業で講座を開催するなどして、兄弟の功績を紹介しております。

また、堀部安兵衛と大倉喜八郎は、ともに全国区の知名度があり、新発田市をPRするうえで、大きな功績をもたらしていると考えます。いずれもこれまで市民団体等が中心となり、周知・伝承活動を展開してきましたが、特に大倉喜八郎については、当時、水道敷設への多額の寄付などにより新発田の近代化に大きく貢献しており、今年4月に蔵春閣が移築・公開されたことをきっかけに、改めてその功績を顕彰する機運が高まっております。

一方、市島邸（家）、紫雲寺潟干拓・竹前兄弟につきましては、新発田のある土地（蒲原平野）の成り立ちにおいて、大変重要な役割を果たしたと認識しております。その伝承教育については、基本的には、地域ごとに取り組み、受け継がれるべきものと考えておりますが、いただいたご意見も参考にしながら、今後は、その功績の市民全体へのさらなる周知、啓発を図ってまいります。

最後に、「伝承教育は、若者の郷土愛につながり、それが社会的な人口流出問題解決の一助となる」とのお考えにつきましては、私もまさに思いは同じであり、今後も小・中学校で取り組んでいる「しばたの心継承プロジェクト」や市小学校長会編集の冊子「わたしたちの新発田」等での学習活動や公民館こども交流事業などを通して、若者の故郷への誇りや愛着の醸成に努めていきたいと考えております。

（令和5年11月15日回答）

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。

## ●自然環境を生かした体育実技の充実の必要性について

### Q.

市内小中学生の体育実技等の習得に関することです。新発田市は新潟県内でも珍しく山・川・海の全てにおいて最も身近な環境の中にありますが、その環境を生かした体育実技が今ひとつ適切に行われているとは思えません。以下の体育実技は、競技力向上のためでなく、郷土を愛し、そして自らの命を守るという観点等からも学校教育や社会教育で充実させる必要があるかと思えます。以下につきご意見等をお聞かせください。

1) 水泳：既に市内中高においては水泳実習なるものはありません。唯一小学校ではあるようですが、昔あったように全員が泳げるようになるまでの指導は行われているとは言えないように感じますが、市内の現状と現状に対するご意見や今後の対応の見通しなどをお聞かせください。

2) スキー：学生時代、新潟県民なのに滑れないとからかわれました。十数年前、当時の第一中学校長が初めて実施してから今では小学校でも行われてきたようですが、現状と現状に対するご意見や今後の対応の見通しなどをお聞かせください。

3) 登山：隣の長野県の全中学校では2000m級の山にチャレンジするとのこと。登山の良さは心身を鍛えるとともに、仲間意識を育み、そして達成感（自己肯定感）を得るところにあります。この目的のため、長野県ではむしろ、特別支援学校からこの行事が始まったとのこと。また、新発田市内の小中学校の校歌には、飯豊山や二王子山等が詠まれているにもかかわらず、その存在する知らない子ども達も少なく、山やそれを取り巻く自然環境に無関心と言わざるを得ません。現状と現状に対するご意見や今後の対応の見通しなどをお聞かせください。

(令和5年11月受付)

### A.

#### 1 水泳授業について

令和5年度は、全小学校にて水泳授業を実施しております。小学校学習指導要領に規定されているように、児童が水に親しむことをねらいとした水遊びや、安定した呼吸を続けながら心地よく泳ぐ水泳運動に取り組んでおります。各学校では、泳力に応じたグループ分けを行い、個々の目標に応じた指導を行っており、成果をあげていると聞いております。

できるだけ多くの子どもたちが泳げるようになるよう工夫しておりますが、全員が泳げるようになるまでの指導につきましては、子どもたちの負担となる過剰な指導にならぬよう配慮しておりますことや、指導時間数の限界があることから、難しいと考えております。学校現場では、今も変わらず教職員が精一杯指導を行っておりますことを御理解ください。

中学校では、学習指導要領に「適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことができる」と記されていることから、以前は数校が水泳授業を実施しておりましたが、現在は実施していません。その分、中学校保健体育科では、生徒たちに有益な運動経験を積ませる工夫をしながら指導にあたっているところであります。また、水泳実

技はなくとも、応急手当や水泳の事故防止に関する心得については、必ず授業の中で取り上げているとのことでした。

## 2 スキー授業について

市内の小中学校では、令和4年度に小学校15校中13校、中学校10校中2校がスキー授業を実施しております。

学校の規模に応じて、学年ごとの実施、5、6学年合同での実施、3～6学年合同での実施、1、2学年はそり遊び等、形態は様々ですが、実施校では児童期から自然の中での運動に親しませるとともに、スキーの技術に伴う身体操作力や体幹を鍛えることをねらいとしているとのことでした。学習指導要領にもスキーやスケートなど冬期間種目を「地域の実情に沿って行う」とあることから、当市のスキー場「ニノックススノーパーク」を利用して学習を行う学校が多くあると聞いています。

また、ボランティアとして各校のスキー授業に参加してくださる方も多く、複数の学校をボランティアとして廻ってくださる方もいるなど、市民からの理解も得られてきており、民間の専門指導者、教職員、保護者によるボランティア等、多くの人々の協力で成り立っている教育活動でありますので、どうぞ、あたたかく見守っていただけると幸いです。

## 3 登山

登山は、御指摘どおり、豊かな自然とふれあいながら、気力体力を培う貴重な機会であることは、私も同意見であります。過去には、遠足登山、修学旅行における登山等が行われておりました。しかしながら、過去に近隣の学校でも登山に伴う事故が発生し、その安全管理の難しさからその実施を取りやめることになったと聞いております。

近年、市内中学校では長い距離を歩く活動を行っております。二王子岳や飯豊連峰の景色を堪能しつつ、みんなで励まし合いながら完歩を目指すものであります。20～30キロ程の距離を歩くことにより、気力や体力を培うとともに、仲間とともに心地よい汗をかくことは、登山同様の効果があると考えております。この活動も保護者からの評価が高く、多くの方がボランティアとして参加して下さっておりますことから、これからもこの活動が充実して欲しいと願っているところであります。

(令和5年11月30日回答)

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。

## ●中学校における文化芸術と技術家庭の指導について

### Q.

新発田市内中学校における文化・芸術活動の本来あるべき姿とその拡充につき、そのご意見やご認識等をお聞かせください。私の中学時代は総合的な芸術の発表の場としてだけでなく、保護者や地域の方々からもご協力を得て、文化祭なる名称のもとその発表が行われ、今でもその良い思い出が残っています。当時は絵画、工芸（木工・金属という一部技術家庭科作品）、書道の作品展示に加え、音楽の発表の場もそこにはありましたが、今は文化祭の名称はなくなり、合唱コンクールのみが行われていると聞きました。創造性や集中力を養い、芸術的センスを磨くためにも、そして多種多様な個々の特殊性に対応するためにも、以前のような文化祭の方がよいのではと考えます。従えに加え最近では、短歌や俳句そして朗読・放送などの国語的な発表の必要性も感じています。しかしながら、総合的な学校での授業時間数の減により、本来の美術や技術家庭の時間数にもしわ寄せがいき、それにより従来文化祭から単なる今の合唱コンクールにとって代わったとしたら、大変残念な思いがします。結局、生徒たちにとっては不十分な学校生活となり、個々の力量を計れないまま中学校時代が終わっている感がします。

- 1) 中学校における芸術指導や発表の在り方をどうとらえているのか、今後もどのようにしていくのかお聞かせください。
- 2) 学校地域本部事業の推進やコミュニティスクールの導入に向け、お互いの連携の重要性が叫ばれながらも、現状は学校側からの保護者向けの一方的な発表会に終わっている感が否めません。このような現状の分析と今後の見通しをお聞かせください。
- 3) 芸術は人間性の充実を図る上でも必要不可欠であり、そして技術家庭科は生徒たちが今後生活していく上でも、または防災・減災対応のためにも習得すべきことが多くあります。とりわけ技術家庭科においては、一度も金槌や鋸を使用しない学校もあると聞きました。現状をどう把握され、どう分析され、今後の見通しもお聞かせください。

（令和5年11月受付）

### A.

#### 1 文化芸術の発表の場について

現在、市内の中学校10校では、従来のような文化祭は実施しておらず、音楽の発表の場として合唱コンクールが行われている状況です。それぞれの学校では、文化祭の代わりとして、短歌、俳句、書写、英作文、絵画、本棚、裁縫等の作品を、学期末の保護者懇談会や授業参観等の保護者が来校する時に合わせて、廊下に展示したり多目的教室等に展示したりして、発表の場を設けております。学期末の保護者懇談会の時に、「学習成果発表会」として保護者に御案内している学校もあります。また、総合学習では、学習したことをスライド等でまとめ、保護者や地域の皆様を招いて発表会を行っている学校も数校あると聞いております。

行事の精選により、従来文化祭から前述のような発表の形に変わってきている状

況ではありますが、以前と変わらず、子どもたちの学習の成果を保護者や地域の皆様に披露できるよう、どの学校も、発表の場や時期について検討しながら進めているとのことです。

授業における芸術指導につきましては、授業時間数の削減や行事の精選等により、本来子どもにとって大切な体験や指導にしわ寄せがいかないように、教育委員会を通じて、今後も各学校に指導してまいります。

## 2 地域学校協働本部事業の推進とコミュニティスクールの導入について

御指摘のとおり、子どもたちの社会性、自主性、創造性等豊かな人間性を育むためには、学校・家庭・地域が一体となり、連携・協働しながら子どもたちの学びや成長を支えていくことが重要であると、私も考えております。令和5年度は、市内の6校の小中学校で、コミュニティスクールの導入に向けた地域学校協働本部事業を実施しており、これまでの「学校支援地域本部事業」から「地域学校協働本部事業」となったことで、幅広い地域住民の皆様からの参画を得ながら、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々な活動を行っているとのことです。

学校には、学校と地域の調整役として地域コーディネーターを配置し、様々な教育支援活動を行っていただいております。例えば、「田植えや畑づくり指導」「読み聞かせ会」「昔の遊び体験」「ミシン・釘打ち・のこぎり等の使い方」「弦楽器や和楽器教室」「そろばん体験」「スキー教室」等の活動において、地域の皆様から講師を担っていただき、教育活動を行っているとのことです。

また、市独自の取組として、市内の小中学校25校全てに地域コーディネーターを配置し、ふるさとへの愛着を育む「しばたの心継承プロジェクト」を行っております。子どもたちが地域に出向いて郷土学習を行ったり、地域の皆様と共に地域課題を解決したり、地域の行事に参画して共に地域づくりに関わったりする中で、新発田の歴史や文化、自然、産業など、住む町の良さや課題などへの理解を深めております。

このような活動を、さらに発展させながら、学校・家庭・地域の連携が一方的なものに終わらないよう教育委員会に指示したところです。

## 3 技術家庭科について

御指摘のとおり、技術家庭科は、子どもたちの生きる力を育む上で、重要な教科であると私も認識しております。

技術家庭科では、「材料と加工の技術」の内容の中で、「自分の生活に役立つ物を作る」という学習が行われております。学習指導要領では、木材やプラスチック、鉄の中から選択して学習を行うこととなっており、現在、使用している教科書により、ほとんどの学校では木材を使った授業が行われているとのことです。

木材を加工する際に、金槌や鋸のほか、電動ドライバー等の電動工具を使用している学校もあると聞いております。

時代の変化と共に、使う道具の変化は多少ございますが、今後、子どもたちの生きる力を育むためにも、技術家庭科を軽視することなく、充実した教育活動を展開するよう教育委員会に指示してまいります。

(令和5年11月30日回答)

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。